

令和 3 年度  
長岡市内遺跡発掘調査報告書

2022

新潟県長岡市教育委員会

## 例 言

1. 本書は、長岡市内で計画された開発工事に先立って実施した試掘・確認調査の報告である。これらについては令和3年度国庫・県費補助金の交付を受けた。
2. 調査主体は長岡市教育委員会科学博物館である。
3. 本文の執筆は、山賀（1・4・5・6・7）、加藤（2・3）、新田（8）で分担し、編集は山賀が行った。図版などの作成は一部で整理作業員の協力を得た。
4. 遺物番号は遺跡ごとの通し番号である。
5. 出土遺物や写真及び測量図面などの記録類は長岡市教育委員会が保管している。
6. 現地調査から本書の作成に至るまで多くの方から御協力、御教示を賜った。記して御礼を申し上げる（五十音順・敬称略）。

大積地区連合町内会 株式会社INPEX 三島郡北部土地改良区 信濃川左岸土地改良区 寺泊高内集落  
寺泊田尻集落 寺泊万善寺集落 長岡市土木部道路建設課 長岡市土木部土木政策調整課  
新潟県長岡地域振興局 宮本地区連合町内会

## 目 次

1	令和3年度長岡市内遺跡発掘調査の概要	1
2	寺泊（平野新）地区試掘確認調査	3
3	与板柳之町地区試掘調査	9
4	長岡西地区試掘調査	10
5	宮本・大積地区試掘調査	14
6	転堂遺跡確認調査	16
7	深沢地区試掘調査	17
8	岩田遺跡確認調査	18



第1図 長岡市の位置



写真1 調査風景

# 1 令和3年度長岡市内遺跡発掘調査の概要

## (1) 長岡市の地勢

長岡市は、新潟県のほぼ中央部に位置しており、面積は891km<sup>2</sup>におよぶ。市の中央部を日本一の長さとし、流量を誇る信濃川が縦断し、その兩岸に肥沃な沖積平野が広がっている。平野の東西には、東山丘陵と西山丘陵と称される東頸城丘陵がそれぞれ連なっている。東山丘陵の東、栃尾地域の南東方面には、越後山脈に属する標高1,537mの守門岳がそびえる一方、市域の北側の寺泊地域では日本海に面して約16kmの南北に延びる海岸線を持つ。このように長岡市の地形は、山岳地帯から丘陵・平野・海岸部に至り、非常に変化に富んでいる点に特徴がある。その地勢的な要因から、それぞれの地域によって特色ある歴史、文化が育まれてきている。

## (2) 調査の概要

令和3年度に遺跡の本発掘調査はなかったが、試掘・確認調査は6件実施された。このほか、諸開発に伴う立会調査を5件実施した。本発掘調査は平成21年度をピークに平成25年度まで横ばいに進んだが、以降徐々に減少し平成28年度以降は1件のみとなっている。また、昨年度12件だった試掘・確認調査の件数は、今年度は6件と減少した。しかし、直近10年間の調査数は昨年を除き毎年10件に満たない調査数となっており、横ばい傾向となっている。立会調査件数は令和元年度をピークに減少している。調査原因をみると、県営圃場整備事業のほか、道路建設・拡幅などの公共工事や住宅建設、探鉱施設整備などの民間開発の多岐にわたる原因により調査がなされてきている。

本年度実施した調査の主な結果について概観する。県営圃場整備事業に伴う試掘調査は寺泊地区と長岡地区で実施された。寺泊平野新地区においては、調査範囲内にいくつかの遺跡が知られているが、今回の調査では遺構・遺物は確認されなかった。また、長岡西地区では、周知の遺跡である下屋敷遺跡の範囲から土坑や井戸、溝の遺構と土師器、須恵器が出土した。今回の調査で下屋敷遺跡の範囲が把握できたことは大きな成果となった。市道改良事業に伴う軒堂遺跡の確認調査では、一部で土坑やピット、縄文土器を検出しており、来年度本発掘調査を実施する予定である。その他の調査では遺物、遺構の検出は見られず、事業において影響がないことが確認されたため事業がすすめられることになった。

第1表 令和3年度長岡市内遺跡調査一覧（本書掲載の調査はゴシック体で示した）

地域	地区	調査原因	結果など
寺泊	寺泊（平野新）地区	県営圃場整備	試掘 遺構なし／青磁
与板	与板柳之町地区	こども園建設	試掘 遺構・遺物なし
三島	瓜生館跡	ボーリング調査	立会 遺構・遺物なし
長岡	長岡城跡（大手通2丁目）	集合住宅建設	立会 遺構・遺物なし ※令和3年3月実施
	長岡城跡（関東町）	店舗建替工事	立会 遺構・遺物なし
	深沢地区	探鉱施設整備	試掘 遺構・遺物なし
	軒堂遺跡	市道改良工事	確認 土坑／縄文土器・石器
	宮本・大積地区	スマートIC整備	試掘 遺構・遺物なし
	長岡西地区	県営圃場整備	試掘 溝、土坑、ピット／須恵器、土師器、珠洲焼
	岩野原西遺跡隣接地	公園整備	立会 遺構・遺物なし
栃尾	杜々森遺跡隣接地	電柱関連工事	立会 遺構・遺物なし
越路	岩田遺跡	国道改良工事	確認 遺構・遺物なし ※令和3年3月実施
	本条遺跡	個人住宅建設	立会 遺構・遺物なし





第2図 令和3年度調査位置図 (1/250,000)



## 2 寺泊（平野新）地区試掘確認調査

調査地	長岡市寺泊万善寺字前田ほか	調査面積	278㎡（対象面積226,000㎡）
調査期間	令和3年10月1日～11月10日	調査担当	加藤 由美子

**調査に至る経緯** 平成29年1月、新潟県長岡地域振興局農林振興部農村計画課（以下、県振興局）から長岡市教育委員会（以下、市教委）に、長岡市寺泊町軽井ほか地内における埋蔵文化財の取り扱いについて照会があった。市教委は、同地域には周知の遺跡が複数存在し未周知の遺跡の存在も考えられるため、開発に際しては事業着手前に埋蔵文化財の試掘調査が必要である旨を県振興局に回答した。令和元年7月、県振興局は県営平野新地区区画整理（経営体育成基盤整備）事業の対象地について、市教委に試掘確認調査を依頼した。これを受けて市教委は、平野新地区は広大なため複数年で調査を行う計画を立て、県振興局もこれに同意した。調査は田んぼの耕作に支障がない秋の稲刈り後に実施することとなり、調査2年目の令和3年度は高内・万善寺・敦ヶ曾根・田尻地内で調査を行った。

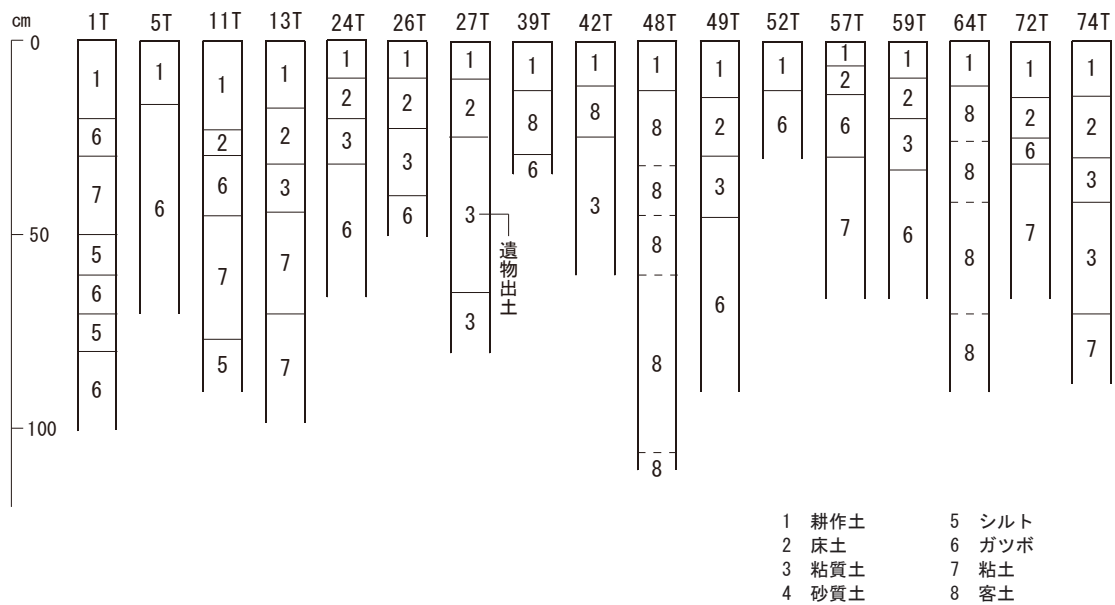
**調査地の概要** 平野新地区は長岡市西部の寺泊地域に所在する（写真2・第3図）。当該地は燕市との市境に当たり、今回の事業対象地は長岡市寺泊の敦ヶ曾根・高内・万善寺・町軽井・入軽井・田尻、燕市の五千石・大川津（興野）にまたがっている。そのため試掘確認調査も長岡市・燕市両市がそれぞれの地籍を分担して実施している。平野新地区は越後平野の最南端に位置し、当該地の東側で信濃川が北へ大きくカーブする。各集落は東頸城丘陵（東側丘陵）の裾部や信濃川の自然堤防上に形成され、周囲の平野部を耕作地として利用している。古くから信濃川の洪水常襲地帯であるため、一帯の土質は泥炭層が厚く堆積する軟弱地盤が大半を占めている。



写真2 調査地全景



第3図 調査位置図（1/75,000）



第4図 土層柱状図 (1/20)

**調査の結果** 試掘確認調査に際し県振興局から提示された事業計画案では、削平を伴う田面調整が予定されていなかったため、今回の調査では排水路・パイプライン・揚水機場が予定される箇所のみトレンチを設定し、面工事だけが予定される部分は調査の対象から外した。調査対象地内に1.5m × 2.5mの試掘トレンチを計74か所設定した(第5～8図)。調査地内の土層は大きく2つのタイプに分けられる(第4図)。田尻・敦ヶ曾根および万善寺の北側の12～17・70～74トレンチ等では、深度の差はあるもののしまりのある粘土質の基盤層が認められ比較的安定した地盤である。一方、万善寺の南側および高内地内の大半のトレンチではガツボ(植物遺体)を多く含む腐植土層が認められる軟弱な地盤であった。それを裏付けるかのように、高内地内では近代の地盤改良に伴う客土の痕跡が随所で確認されている。

調査の結果、遺構や遺物包含層は確認できなかった。遺物は周知の堂山遺跡に近接する27トレンチで13世紀の青磁椀の破片が1点出土した。堂山遺跡からの流れ込みとも考えられる。今年度の調査対象地やその周辺にはこの堂山遺跡(時期不明)を始め、船行寺跡(時期不明)、敦ヶ曾根狐塚遺跡(古代)、経田遺跡(縄文)等、周知の遺跡が少なからず存在するため、今回の試掘確認調査により新たな遺跡が発見されることも想定していたが、少なくとも今回の調査深度の限りにおいては新たな遺跡は確認できなかった。

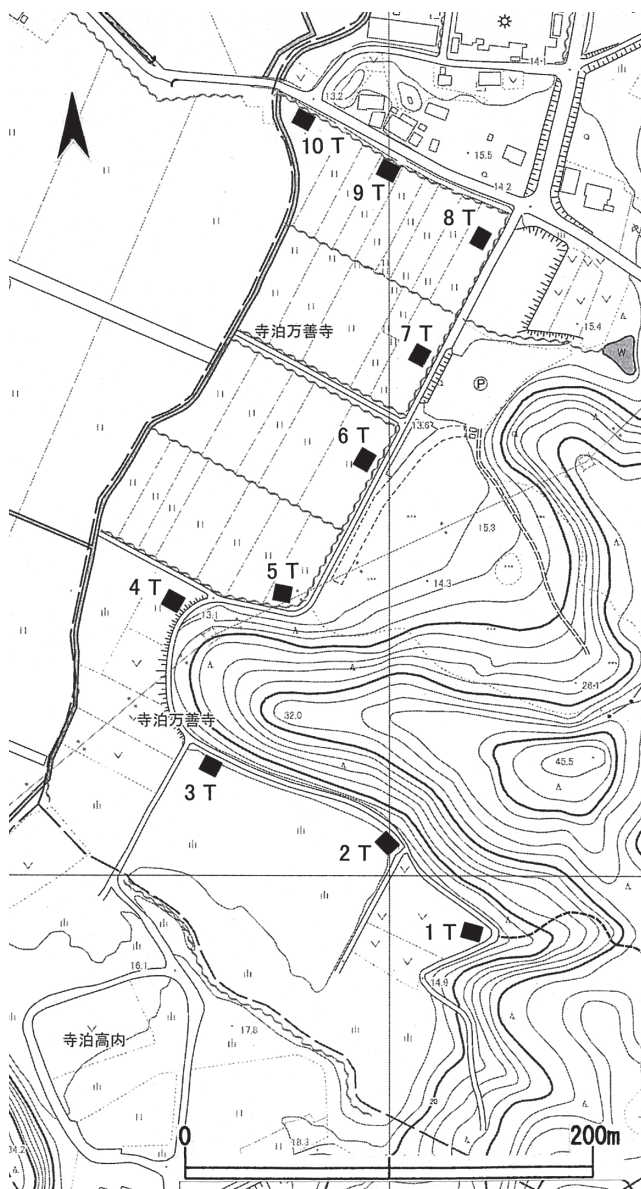


写真3 調査風景(掘削)

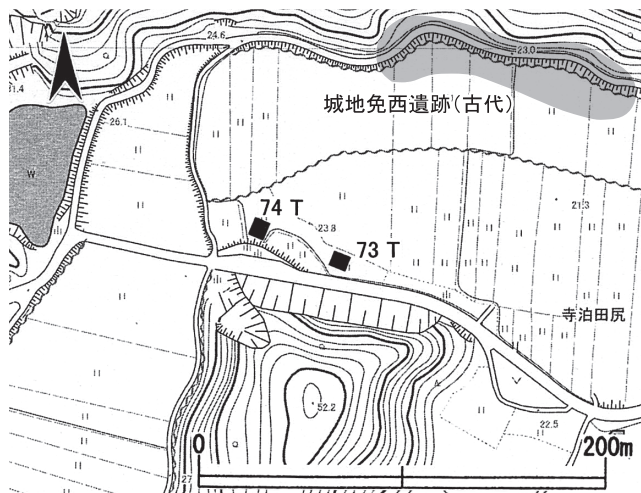


写真4 調査風景(埋戻し)





第5図 トレンチ配置図① (1/3, 350)



第6図 トレンチ配置図② (1/3, 350)

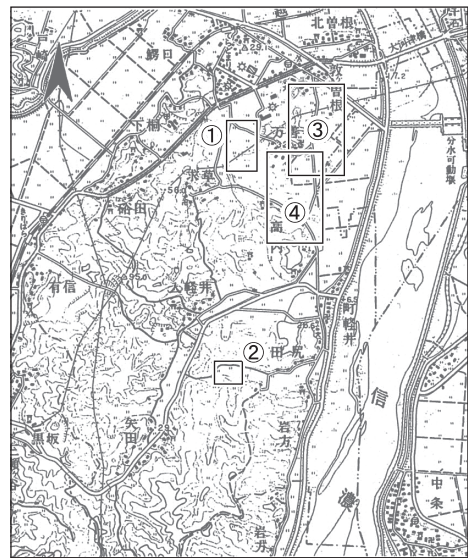
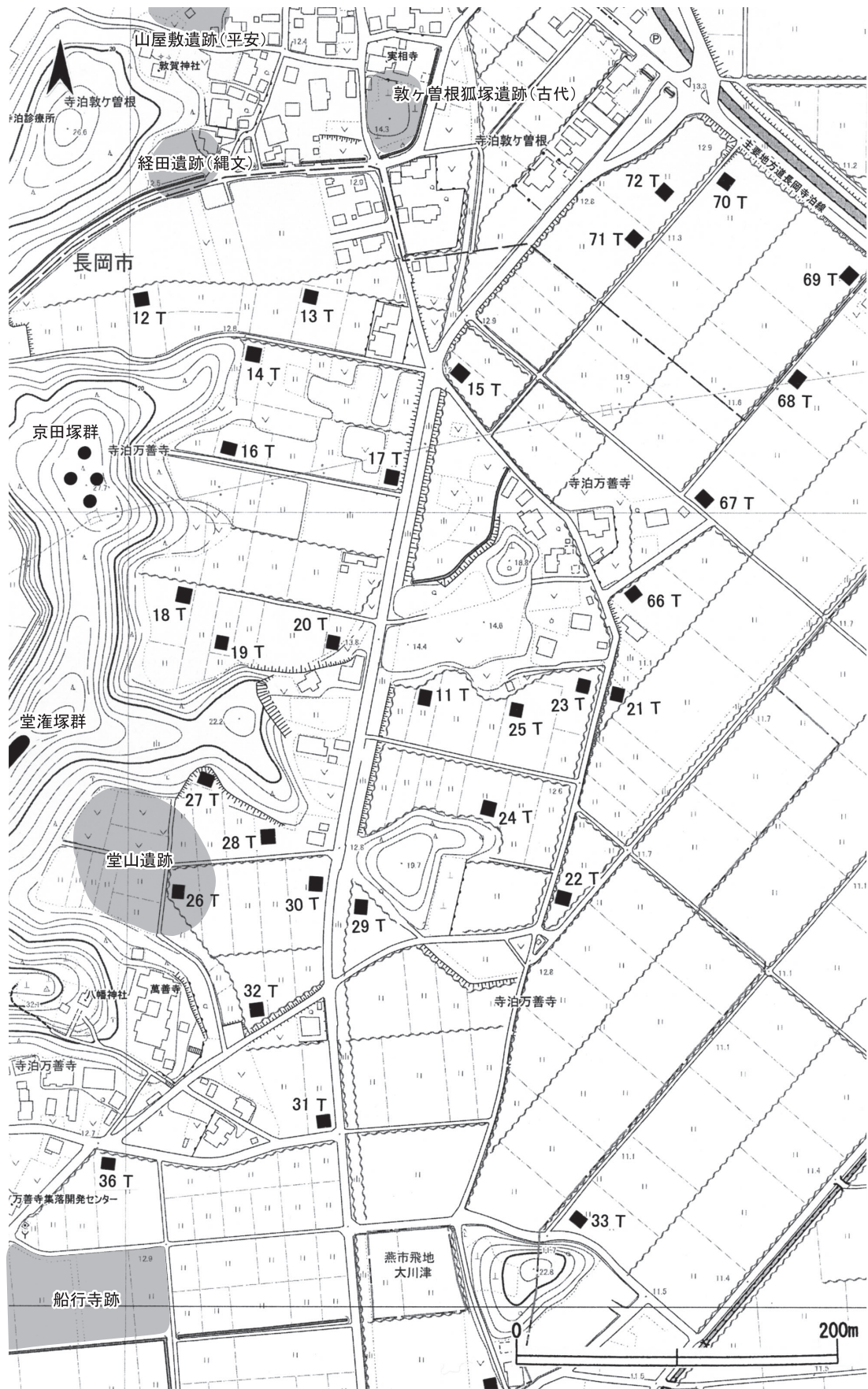


写真5 調査風景



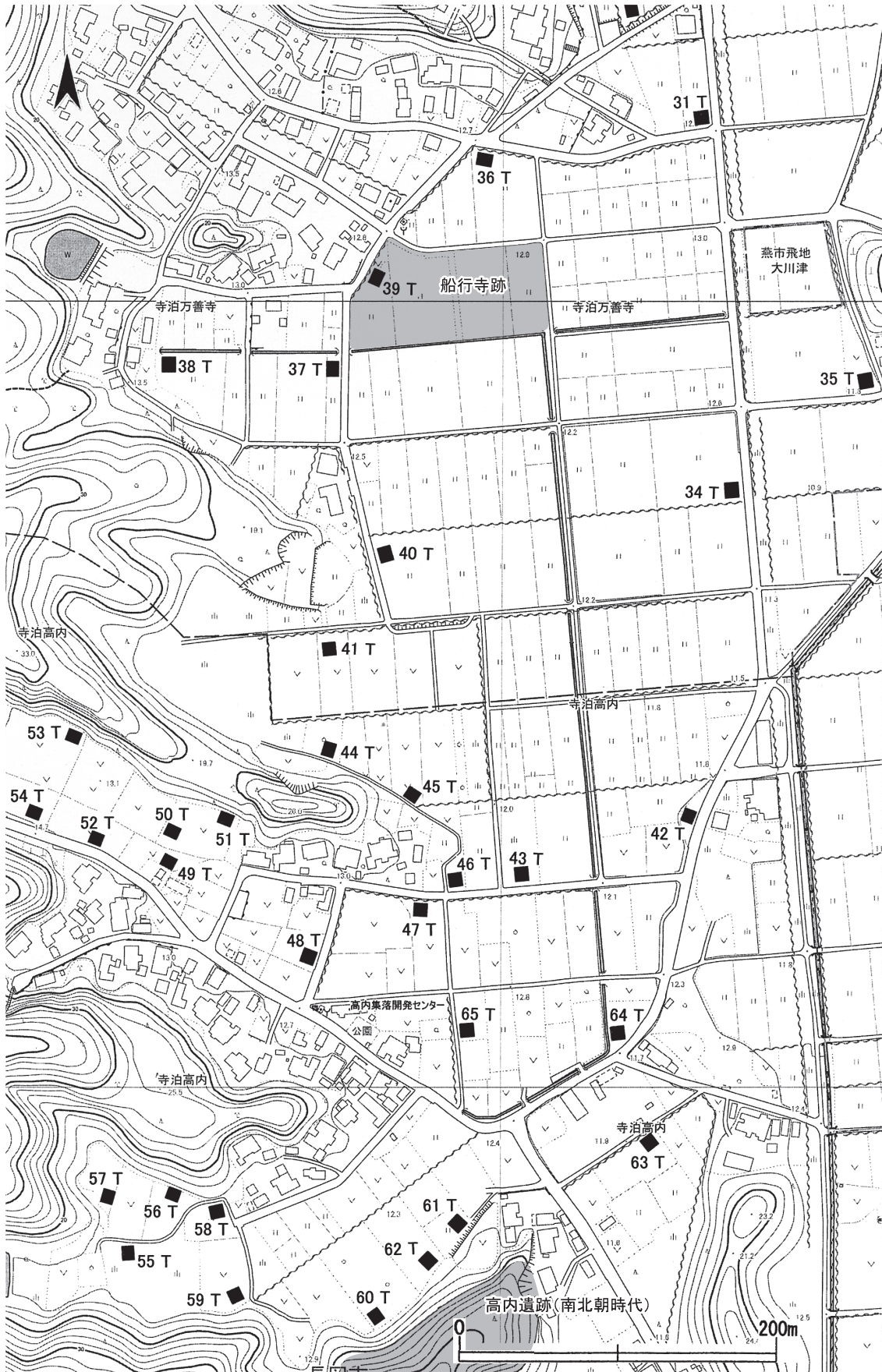
写真6 出土遺物 (27トレンチ)





第7図 トレンチ配置図③ (1/3, 350)





第8図 トレンチ配置図④ (1/3, 350)





写真7 1トレンチ



写真8 5トレンチ



写真9 11トレンチ



写真10 13トレンチ



写真11 24トレンチ



写真12 27トレンチ



写真13 48トレンチ



写真14 49トレンチ



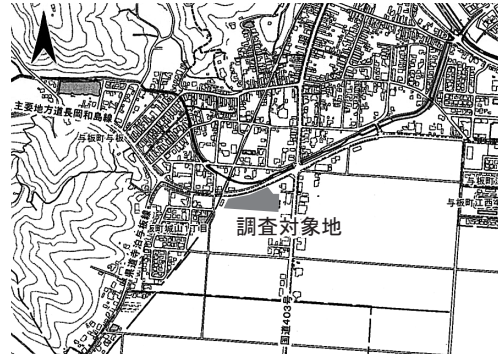
### 3 与板柳之町地区試掘調査

調査地 長岡市与板町与板字柳之町乙地内  
 調査期間 令和3年10月13日

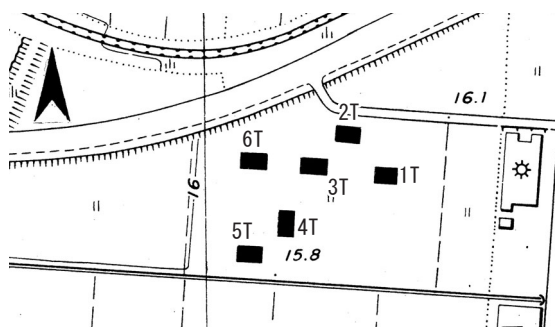
調査面積 9㎡ (対象面積5,060㎡)  
 調査担当 加藤 由美子

**調査に至る経緯** 令和3年5月26日、長岡市教育委員会は、社会福祉法人光寿福社会（以下、事業者）と与板こども園建設事業に係る埋蔵文化財の取扱いについての協議を行った。事業予定地には周知の遺跡は存在しないが、近年周辺の田んぼで遺物が採集されており未発見の遺跡が存在する可能性もあるため、開発に先立ち試掘調査を実施し遺跡の有無を確認することとした。

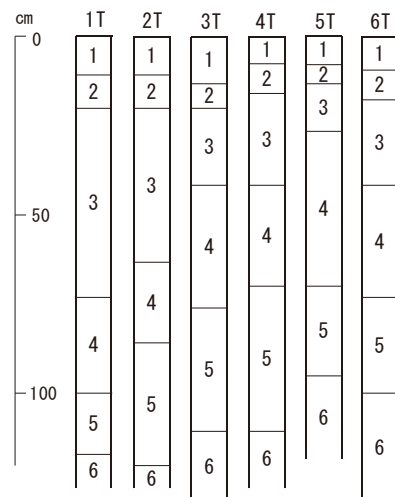
**調査地の概要** 調査地は信濃川左岸の西山丘陵裾部の末端に位置している。標高は15.5m、現況は水田である（第9図）。今回は事業予定地のうち園舎建設が予定される範囲に1m×1.5mの試掘トレンチを6か所設定した（第10図）。表土以下は粘質土が主体のしまりのある土層が堆積し、一部にガツボ（植物遺体）層を薄く挟むが非常に安定した地盤である（第11図）。調査の結果、遺構・遺物ともに確認できなかったため、事業予定地内には遺跡は存在しないと判断した。



第9図 調査位置図 (1/20,000)



第10図 トレンチ配置図 (1/2,500)



- 1 耕作土
- 2 暗褐粘質土
- 3 灰黄粘質土（やや砂質）
- 4 暗灰黄粘質土
- 5 茶褐ガツボ混粘質土
- 6 灰褐～青灰粘質土

第11図 土層柱状図 (1/20)



写真15 調査地全景



写真16 2トレンチ

## 4 長岡西地区試掘調査

調査地	長岡市五反田町167-1 ほか	調査面積	810㎡（対象面積280,000㎡）
調査期間	令和3年10月7日～10月29日	調査担当	山賀和也

**調査に至る経緯** 平成30年1月10日に、新潟県長岡地域振興局農林整備部（以下、事業者）から長岡市雲出町から関原町1丁目に広がる水田において県営経営体育成基盤整備事業が計画されていることから、埋蔵文化財の取扱いについて照会があった。事業地には複数の遺跡の存在が知られており、試掘確認調査を実施し遺跡の状況を把握する必要があることを伝えた。調査は、令和2年から実施することとし、今年度は2年目の調査である。

**調査地の概要** 調査地は、信濃川左岸の東頸城丘陵から派生する丘陵の北側裾部の沖積地に位置している。曾地峠から流れる黒川が谷間を抜けて平野部に流れ出てくる位置でもある。今回の調査は事業対象地域の東半部分である（第12図）。調査対象範囲内には、下屋敷遺跡が位置している。下屋敷遺跡は、過去の区画整理事業で発見された古代から中世の遺跡である。平成21年度には道路改良事業に伴う発掘調査が行われ、9世紀代と14～15世紀の集落跡であることが明らかとなっている。今回の試掘調査では、下屋敷遺跡の範囲を明確にすることも目的の一つである。

**調査の結果** 調査は、事業地内に153か所のトレンチを設定し、バックホウと人力で慎重に掘削を行った（第14図）。調査範囲の土層堆積は、大きく2つに分けることができる。遺跡のない範囲は、灰白色粘土や青灰色粘土層が堆積し沖積地の特徴を表しているが、一方で遺跡が位置する範囲は、耕作土直下に黄褐色土層が堆積しており非常に安定した地盤である。調査範囲は段丘の裾部にあたるため、北及び東方向に段丘が沖積地に埋没していく状況が確認できた。

調査の結果、主に41～83Tの多くのトレンチで遺構・遺物が検出された。主な出土遺物は土師器、須恵器であるが、珠洲焼も少量出土している。しかし、1・2層の耕作土直下に黄褐色土層が堆積しており、明確な遺物包含層は残っていなかった。これは、過去の区画整理事業によるものと考えられる。遺構は、土坑、溝、井戸が検出されている。

**出土遺物** 出土遺物は、合計28トレンチから出土している。そのうち15点について図示した。1～4は66T出土である。1・2は、須恵器有台坏の底部で、いずれも高台が外端接地する。2は内面の底部と体部の境が不明瞭となり椀に近い形態となっている。3は、須恵器無台坏の底部である。切離しは回転ヘラ切



第12図 調査位置図（1:20,000）



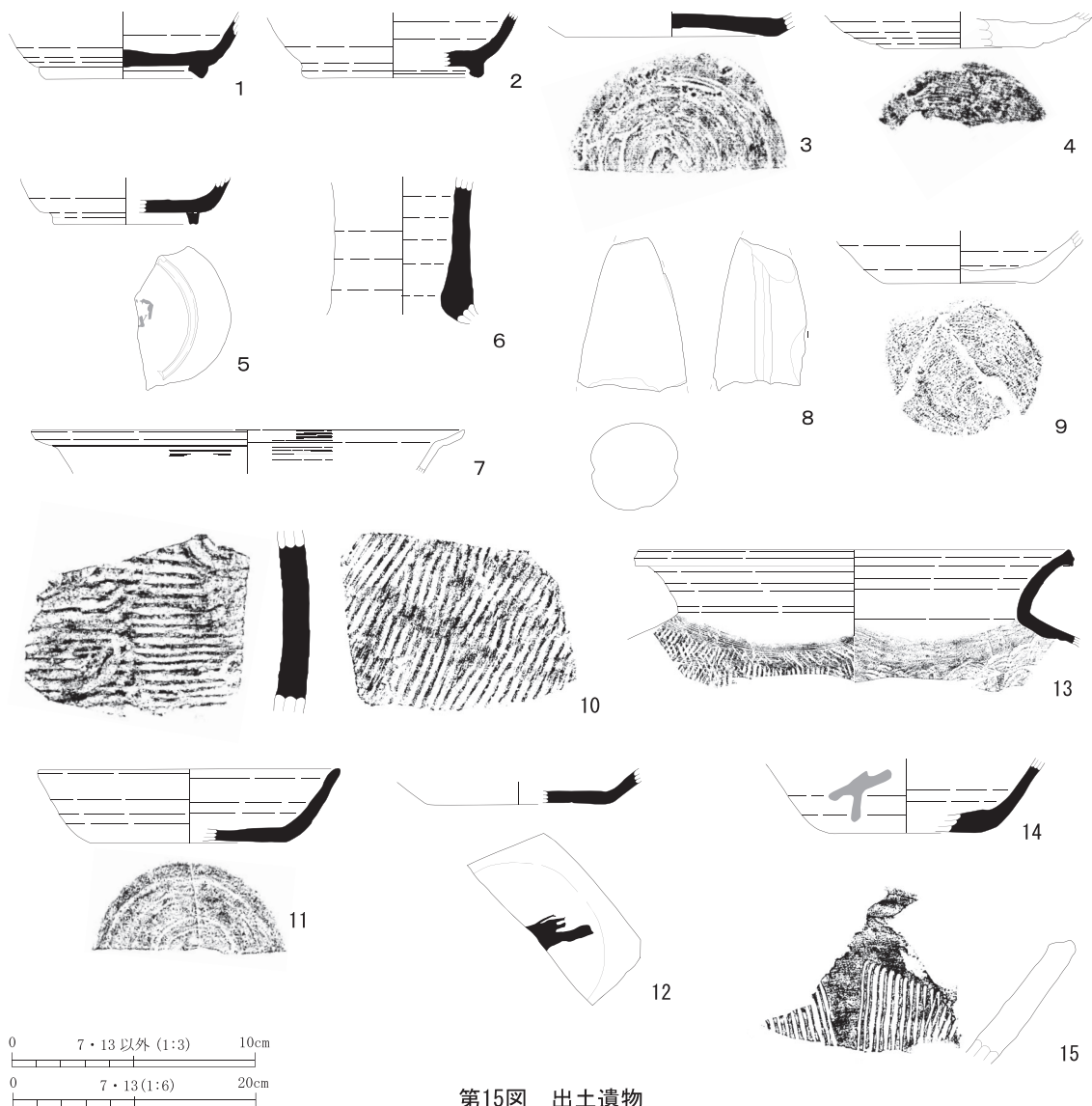


第14図 トレンチ配置図

第13図 土層柱状図 (1 : 60)

りである。4は、土師器の無台椀の底部で、ロクロ目が顕著に残っている。切離しは回転糸切である。5～8は、67Tからの出土である。5は須恵器有台坏で、外部底面に漆が付着している。小型の有台坏と思われる。6は、須恵器長頸壺の頸部である。7は、土師器鍋の口縁部で体部から「く」字に外反し、端部は丸く収めている。8は、安山岩の有溝石錘である。上端部と下半部が欠損している。火を受けた痕がある。9は、69Tからの出土である。土師器の無台椀で、底部回転糸切である。10は、71Tからの出土で須恵器甕の胴部である。外面に平行タタキ、内面に平行及び同心円当具の痕跡を残す。11・12は、152Tからの出土でいずれも須恵器無台坏である。11は、口径12.6cm、底径8.2cm、器高3.1cmを測る。12は底部外面に墨書がみられる。13は、104T出土で須恵器甕の口縁部である。胴部から口縁部が外反し端部を下方につまみ出す。口径は35.6cmを測る。14は、108T出土の須恵器無台坏である。体部外面に漆書がみられるが、内容は不明である。15は、94Tで珠洲焼の片口鉢である。内面には12本で一単位の卸目が施されている。平安時代の遺物は9世紀代に、珠洲焼は14～15世紀に属するものと考えられる。

**まとめ** 今回の調査では下屋敷遺跡の全体の範囲が把握できたことは大きな成果と言える。この結果を事業者に伝え、事業計画に反映するように要望した。今後は事業計画と埋蔵文化財の取扱いについて協議を進めていく予定である。



第15図 出土遺物





写真17 調査前現況



写真18 7T完掘



写真19 35T断面



写真20 51T完掘

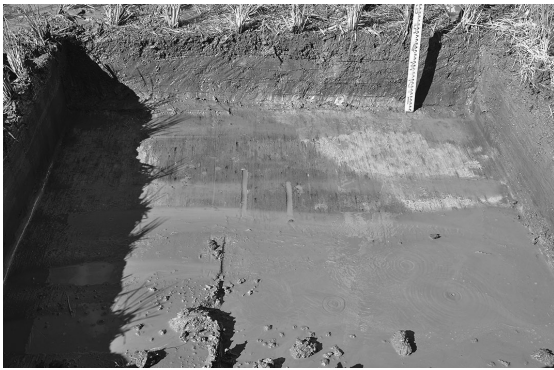


写真21 66T完掘



写真22 78T完掘

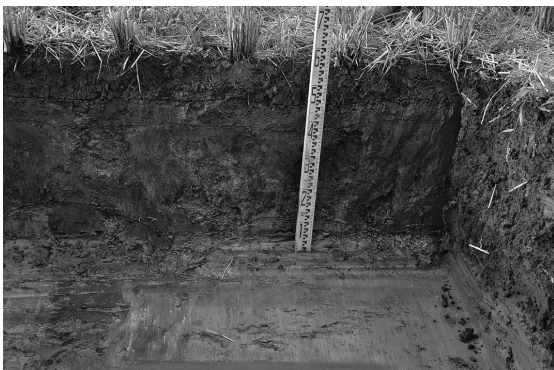


写真23 143T断面



写真24 出土遺物



## 5 宮本・大積地区試掘調査

調査地	長岡市宮本東方町字熊之宮ほか	調査面積	42.8㎡ (対象面積15,000㎡)
調査期間	令和3年9月13日～10月28日	調査担当	山賀和也

**調査に至る経緯** 平成30年10月24日、長岡市教育委員会（以下、市教委）は、長岡市土木部土木政策調整課と宮本町長岡ニュータウン線（以下、NT線）及び大積スマートIC（仮称）（以下、SIC）建設事業に係る埋蔵文化財の取扱いについての協議を行った。当該事業は、大積パーキングエリアにスマートICを新設し、そこから長岡ニュータウンへ向かう連絡道路を建設する事業である。事業地には、周知の遺跡は存在しないが、未発見の遺跡が存在する可能性があるため、試掘調査を実施することとした。令和2年度にNT線のニュータウン側の丘陵上の試掘調査を実施している。なお、SICの建設については、東日本高速道路株式会社と長岡市が実施するため、遺跡発掘調査についても東日本高速道路株式会社の事業地部分は新潟県教育委員会（以下、県教委）が、長岡市の事業地部分については市教委が担当した。

**調査地の概要** 調査地は、黒川の左岸丘陵頂部の平坦面および右岸の丘陵から黒川に向かう扇状地に位置している。現況は、森林及び水田である。黒川左岸の丘陵頂部に通っている北陸自動車道の部分は発掘調査が行われ、縄文時代後期の熊之宮遺跡が発見されている。今回のSIC事業地は、以前の調査・開発で調査範囲外となった丘陵先端部にあたる。

**調査の結果** 調査区は、黒川を挟んで北と南に調査区が分かれたため、北側をA区、南側をB区とした。A区は7か所、B区は4か所のトレンチを設定し、A区は人力、B区はバックホウで掘削した。A区は県教委と合同で調査を行い、1～7Tを市教委が調査した。

A区は、明黄褐色シルトの上に旧表土とみられる暗褐色土が堆積していた。1Tの表土から縄文土器片が出土したが、他に遺物は出土しなかった。B区は、水田耕作土及び灰色粘土層の下に暗青灰色砂利が堆積していた。A区B区ともに遺構・遺物は検出されなかったため、今回の調査範囲に遺跡は存在しないと判断し、事業者へ伝えた。



第16図 調査位置図 (1 : 15,000)

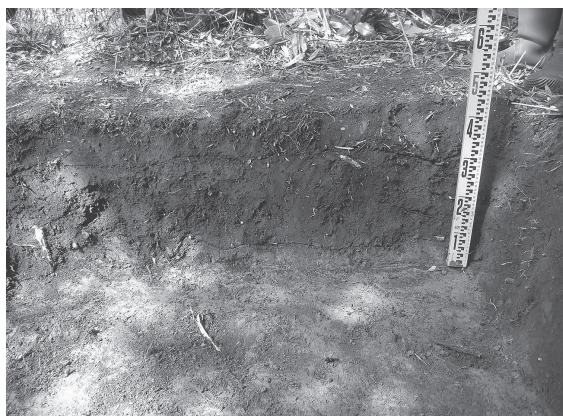
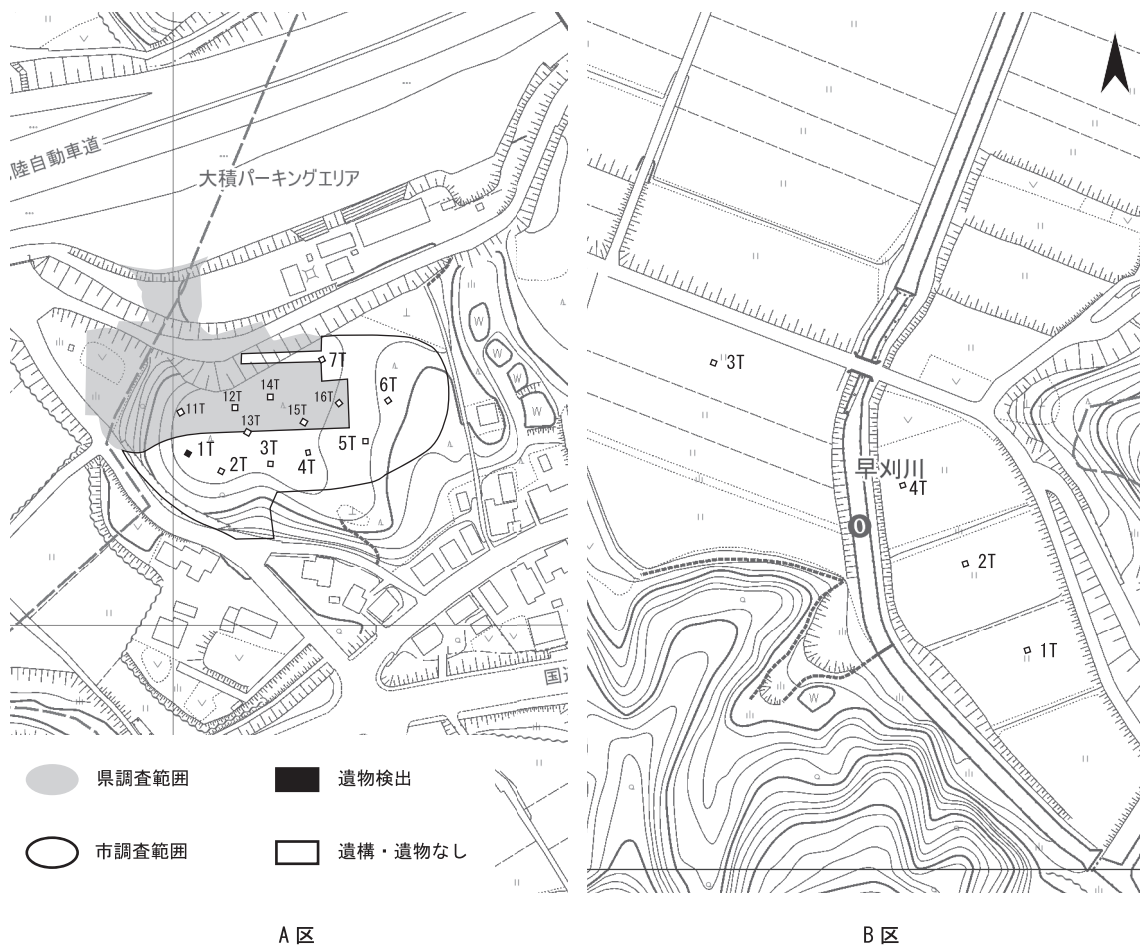


写真25 A区1T断面（東から）

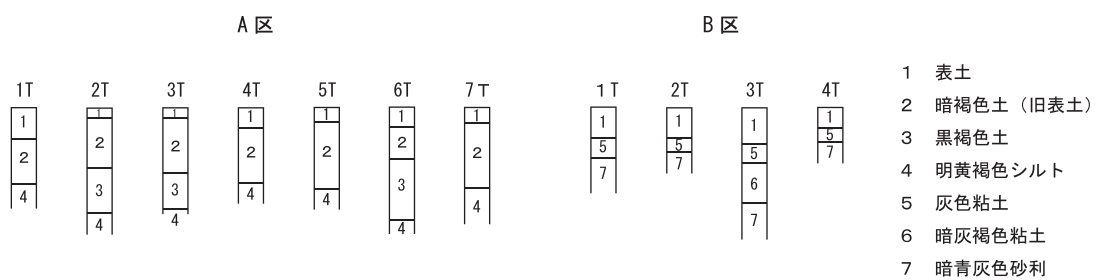


写真26 A区7T完掘（北から）





第17図 トレンチ配置図 (1 : 3,000)



第18図 土層柱状図 (1 : 30)



写真27 B区1T完掘 (北から)



写真28 作業風景

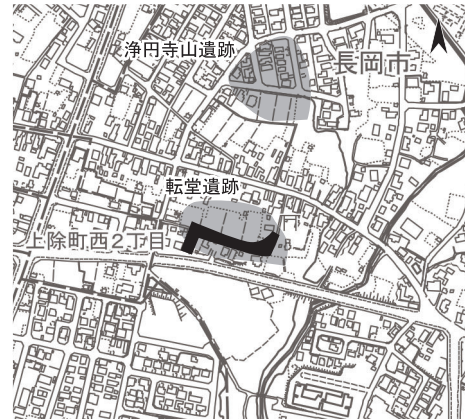
## 6 転堂遺跡確認調査

調査地 長岡市上除町甲1964番地ほか  
 調査面積 24.32㎡（対象面積720㎡）  
 調査期間 令和3年4月16日  
 調査担当 山賀和也

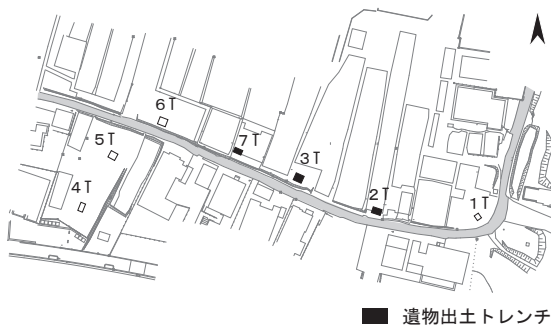
**調査に至る経緯** 令和2年1月、転堂遺跡の範囲内で市道改良事業の計画がある情報を得たため、長岡市土木部道路建設課（以下、事業者）と遺跡の取扱いについて協議を行った。事業着手前に遺跡の状況を確認する必要があることを伝え、事業の進捗状況に合わせて確認調査を行うことで合意した。

**調査地の概要** 調査地は、信濃川左岸の河岸段丘上に位置する。標高は約50m、現況は畑地である。転堂遺跡は縄文時代中期の遺跡で、古くから存在を知られており多量の縄文土器および石器が採集されている。

**調査の結果** 7か所のトレンチを任意で設定し、バックホウと人力で丁寧に掘削した。3Tでまとまった遺物が出土したが、全体的には黄褐色土層まで浅く、耕作等の影響で遺物包含層の残存状況がよくないものと考えられる。3・5・7Tではピットなどの遺構も検出された。出土遺物は、縄文土器、石器が出土している。調査の結果から3Tを中心とした範囲に遺跡が広がっていることが確認できたため、その部分について事業者にも本発掘調査が必要であることを伝えた。



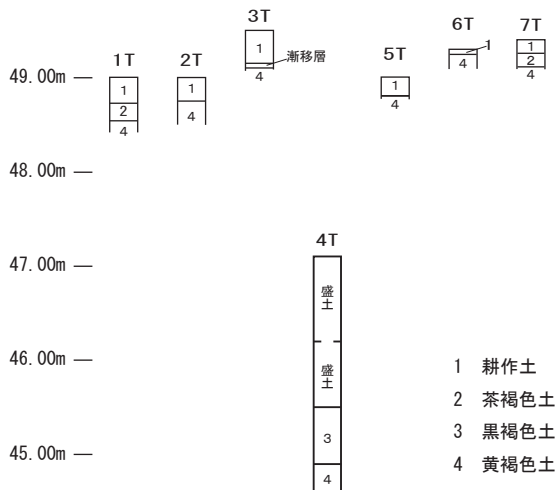
第19図 調査位置図 (1:10,000)



第20図 トレンチ配置図 (1:2,000)



写真29 3T完掘（東から）



第21図 土層柱状図 (1:80)



写真30 出土遺物



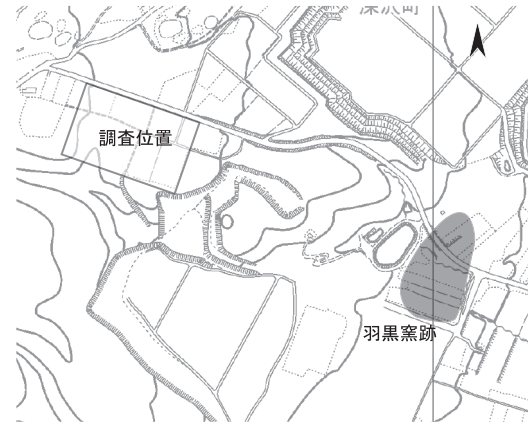
## 7 深沢地区試掘調査

調査地 長岡市長岡市深沢町2611番2ほか  
 調査期間 令和3年9月9日

調査面積 25.4㎡ (対象面積11,000㎡)  
 調査担当 山賀和也

**調査に至る経緯** 令和3年7月20日、株式会社INPEXから探鉱施設整備に伴う埋蔵文化財の取扱いについて照会があった。事業地には周知の埋蔵文化財は存在しないが、周辺で遺物が拾われていることから遺跡の有無を確認するため試掘調査を実施することとした。

**調査地の概要** 調査地は、信濃川左岸の河岸段丘の上位面で平坦面が広がっている。現況は、森林及び畑地である。調査地の東方の斜面には羽黒窯跡が位置している。

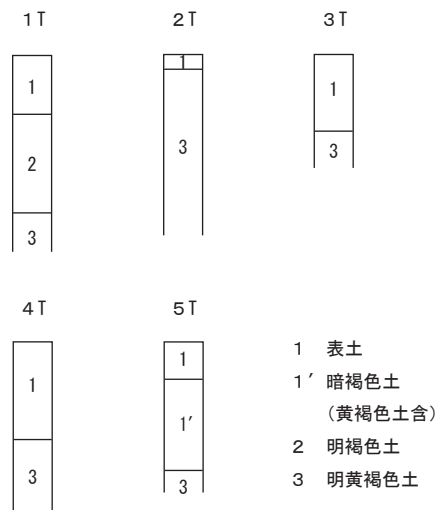


第22図 調査位置図 (1 : 10000)

**調査の結果** 5か所のトレンチを任意で設定し、バックホウと人力で丁寧に掘削した。いずれのトレンチも表土直下に明黄褐色土が堆積しており、遺物・遺構は発見されなかった。そのため、今回の調査範囲に遺跡は存在しないと判断し、これ以上の調査は必要ないことを事業者に伝えた。



第23図 トレンチ配置図 (1 : 2,000)



第24図 土層柱状図 (1 : 20)



写真31 1T完掘 (南から)



写真32 3T断面 (西から)

## 8 岩田遺跡確認調査

調査地 長岡市沢下条字岩田  
 調査期間 令和3年3月23日

調査面積 27.56㎡ (対象面積119.4㎡)  
 調査担当 新田康則

**調査に至る経緯** 令和2年6月10日、国道403号線天神橋架替工事に係る埋蔵文化財の取り扱いについて照会があった。照会地は岩田遺跡の範囲内であるため、迂回路設置による影響を最大限抑えるよう協議を進めたが、掘削が生じることになった。現地は信越本線複線化に供する土採取工事(昭和45年ごろ)によって10mほど低くなったとの情報もあり、確認調査を実施し、事後の協議に資することにした。

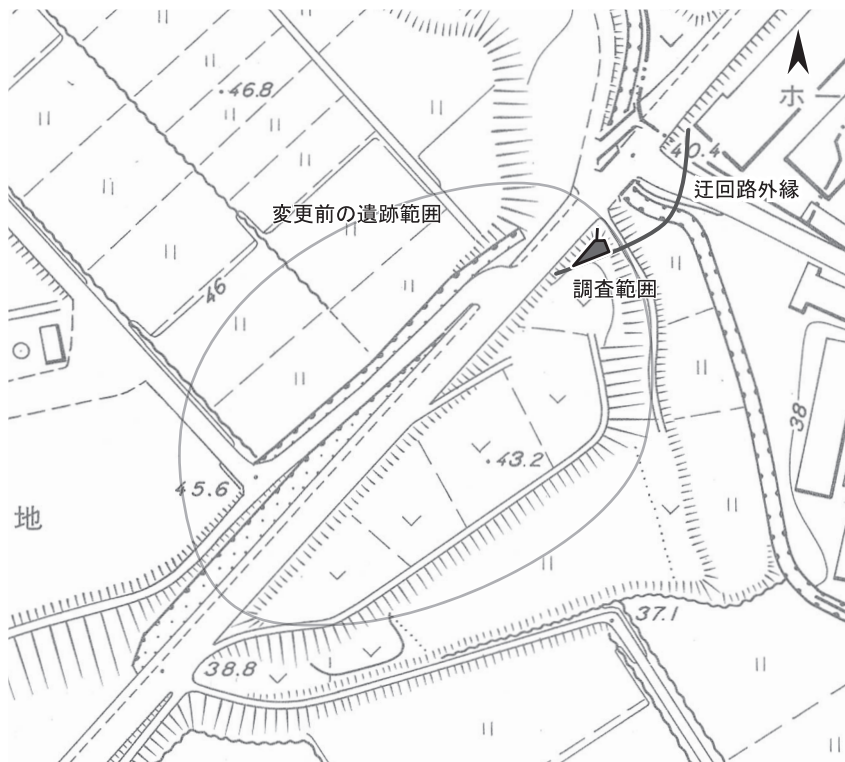


第25図 調査区位置図 (1/10,000)

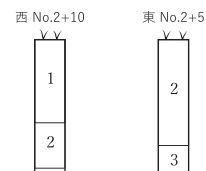
**調査地の概要** 洩海川左岸に形成された河岸段丘上に位置する。

古代の遺跡範囲は国道を挟んだ西側に広がっており、大正年間の国道建設の際には須恵器等が大量に出土したと伝えられる。調査地付近では過去に石鏃等を採取したとの地元情報があり、火焰土器で名高い近藤家の収集資料群にも「岩田」と注記された縄文時代遺物が含まれることから、縄文時代の遺物包含地があったものと推測された。しかし、事前踏査では遺物を採集することはできなかった。

**調査の結果** 工事による掘削予定範囲内の平坦面全域及び、法面の一部を対象に調査したが、遺構・遺物ともに検出できず、遺物包含層相当層も確認できなかった。事前の情報のとおり、大規模な削平を受けていると判断、当該開発事業に係る更なる措置は必要ない旨を事業者に伝えた。そして、今回の調査結果に拠って遺跡範囲の変更を行った。



調査区南壁 sec.



- 1: 明褐色表土
- 2: 灰褐色土層 粘性強
- 3: 灰白色細粒砂層
- 4: 暗灰白色砂層
- 5: 灰白色粘土層
- 6: 黄褐色土層 砂礫少量

北東角法面 sec.

第26図 調査区位置図 (1/2,000) および土層柱状図 (1/20)



## 参考文献

寺泊町

1992 『寺泊町史』 通史編上巻 寺泊町

越路町

1998 『越路町史』 資料編1 原始・古代・中世 越路町

長岡市

1992 『長岡市史』 資料編1 考古 長岡市

長岡市教育委員会

2012 『平成23年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2021 『令和2年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

中村孝三郎

1966 『先史時代と長岡の遺跡』 長岡市立科学博物館

新潟県教育委員会

1978 『新潟県埋蔵文化財報告書第12 熊之宮遺跡』 新潟県教育委員会

## 報告書抄録

ふりがな	れいわさんねんどながおかしないいせきはつちようさほうこくしょ						
書名	令和3年度長岡市内遺跡発掘調査報告書						
副書名							
巻次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	山賀和也・加藤由美子・新田康則						
編集機関	長岡市教育委員会						
所在地	〒940-0084 新潟県長岡市幸町2丁目1番1号						
発行年月日	2022年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号				
どうやまいせき 堂山遺跡	にいがたけんながおかしからどまりぼんぜんじあざおおつほ 新潟県長岡市寺泊万善寺字大坪203.204ほか	152021	1056	376106 1388229	20211001 20211110	3.6㎡	確認調査
せんぎょうじあじ 船行寺跡	にいがたけんながおかしからどまりぼんぜんじあざまえた 新潟県長岡市寺泊万善寺字前田310-1ほか	152021	1080	376083 1388222	20211001 20211110	3.6㎡	確認調査
ころびどういせき 転堂遺跡	にいがたけんながおかしかみのぞきまちこう 新潟県長岡市上除町甲1964番地ほか	152021	15	372704 1384653	20210416 20210416	24.3㎡	確認調査
いわたいせき 岩田遺跡	にいがたけんながおかしきわけじょうあざいわた 新潟県長岡市沢下条字岩田	152021	413	372355 1384535	20210323 20210323	27.6㎡	確認調査
ふりがな 所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項
どうやまいせき 堂山遺跡	遺物包含地	古代	なし	青磁			なし
せんぎょうじあじ 船行寺跡	寺院跡	不明	なし	なし			なし
ころびどういせき 転堂遺跡	遺物包含地	縄文時代	土坑	縄文土器、石器			なし
いわたいせき 岩田遺跡	遺物包含地	古代	なし	なし			なし

## 令和3年度 長岡市内遺跡発掘調査報告書

令和4（2022）年3月31日 印刷

令和4（2022）年3月31日 発行

発行 新潟県長岡市教育委員会

印刷 あかつき印刷株式会社